

# 日本版改良藤田スケール

従来評定に用いていた「藤田スケール」を、最新の風工学の知見を基に改良。  
日本の建築物等の被害状況から、竜巻等突風の強さ(風速)をより精度良く評定することが可能。

## 日本版改良藤田スケールの特長

30種類の日本の建築物等の被害状況から、竜巻等突風の風速を推定可能。

木造の住宅又は店舗	鉄道車両
低層鉄骨系プレハブ戸建住宅・集合住宅	電柱
鉄筋コンクリート造の集合住宅	地上広告板
仮設建築物	道路交通標識
大規模な庇・独立上家の屋根	カーポート
鉄骨造倉庫	塀
木造の非住家建築物	木造・樹脂・アルミフェンス・メッシュフェンス
園芸施設	道路の防風・防雪フェンス
木造の畜産施設	ネット(野球場、ゴルフ場等)
物置	広葉樹
コンテナ	針葉樹
自動販売機	墓石(棹石)
軽自動車	路盤
普通自動車	仮設足場(壁つなぎ材)
大型自動車	ガントリークレーン

〔 従来の藤田スケールは、9種類の米国の建築物等の被害にのみ対応。 〕

従来の藤田スケールに比べ、より絞り込んだ風速の推定が可能。

(例) 突風による住家の屋根瓦の飛散があった場合

(従来)

藤田スケールにより推定される風速：  
33～49m/s

推定値に幅がある

(今後)

日本版改良藤田スケールにより推定される風速：約45m/s

より絞り込んだ推定が可能

推定される風速値は、全て3秒間  
平均値(アメダスで観測している「瞬間風速」と同じ)に統一。

→ 例えば、過去の顕著なアメダス観測値(最大瞬間風速)との比較が可能。

〔 従来の藤田スケールは、階級により風速を平均する秒数が異なる。 〕

同じ突風被害に対する藤田スケールと日本版改良藤田スケールの階級は、基本的に同じになるよう設定。

→ 過去の竜巻等突風の記録との比較が可能。

(例)



突風被害例  
(住家の屋根瓦の飛散)

藤田スケールの階級  
F1

日本版改良藤田スケールの階級  
JEF1

同じ被害では、基本、階級は同じになる